

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

# 融合化に職場から「反対」の声を

## 5/30「京葉線ダイヤ変更」・6/4「首都圏15 駅でみどりの窓口復活」発表

### 【京葉線ダイヤ変更概要】（5/30 発表）

- ◇内房線・外房線を直通する各駅停車 4 本（上下 2 本ずつ）を快速に変更
- ◇快速全体では平日 7 本増、土休日 1 2 本増
- 一方で 3 月ダイ改では…
- 勝浦からは通勤快速直通が 2 本（朝上り 1 本、夕下り 1 本）走っていたが「復活」対象の快速は上総一ノ宮止まり
- 特急「しおさい」（総武本線）、「わかしお」（外房線）、「さざなみ」（内房線）も今ダイ改で削減されている
- 沿線地域の生活基盤を破壊する重大問題は未解決

### 【みどりの窓口復活】（6/4 発表）

- ・窓口全廃した川口や北朝霞など 6 駅は臨時窓口を設ける
- ・窓口の数を減らした蒲田、登戸など 9 駅は混雑状況に応じて閉鎖した窓口を復活させる

### 「異例の見直し」相次ぐ

5 月 30 日、JR 千葉支社は 9 月に「ダイヤ変更」を行い、京葉線の各駅停車の一部を快速に戻すと発表しました。また、6 月 4 日の喜勢社長の記者会見では、首都圏 15 駅で廃止した「みどりの窓口」を繁忙期に復活させると発表しています。

### 「IT 企業化」路線の破たん

京葉線をめぐっては 3 月ダイ改でプレス発表後に改変するという前代未聞の事態となり、さらに半年後に「ダイヤ変更」という異例の対応に追い込まれました。「みどりの窓口」を一度廃止した駅で「復活」させるというのも「異例」です。

喜勢社長就任の冒頭から「異例の見直し」

が続いています。これは喜勢社長らが主導してきた「鉄道ありきで考えるな」「IT 企業化」路線の破たんです。

会社は 22 年に「鉄道部門 4 千人削減」「転籍・副業促進」を掲げ、23 年には「鉄道を持つ IT 企業」化を打ち出しました。「地方路線も乗客も、利益が上がらないなら切り捨てて当然」と舵を切ったのです。

しかし、地域住民からの怒りの声にさらされた部分から「IT 企業化」路線、業務融合化攻撃の破たんが始まりました。

職場では職名廃止・業務融合化、ジョブローテーション等の攻撃が進められています。しかし、地域からの怒りで、攻撃を打ち破る可能性が生まれています。その力は何より、職場からの団結した声と、闘う労働組合の力にあります。今こそ職場から、融合化等の攻撃に「反対」の声をあげよう。